

	内 容	留 意 事 項	危険性・有害性の洗い出し	重篤度	可能性の 度合	リスク 評価	優先度	リスク低減措置
準備工	<ul style="list-style-type: none"> 作業打合わせ(KY活動) 作業位置の確認 作業人員の確認 使用機械、工具の点検 保護具の確認 使用材料の確認、準備 	<ul style="list-style-type: none"> 安全品質作業指示書による 入場KP、作業箇所KPの確認 作業分担、配置の確認 現場故障が無いように始業・終業点検の励行 安全靴・手袋等 TXシートをフラットバーに合わせて2mの長さにカットする。 	カッターで指を切る	2	2	4	II	・保護手袋の着用
材料運搬・高所設置	<ul style="list-style-type: none"> 車両を安全な位置に停車する 車両の荷台から材料、工具を下ろす 高所作業車を施工箇所に設置する 飛散防止対策ネットを設置する 挟まれ防止対策(挟まれん棒の設置)を実施する。 挟まれん棒は必ずデッキ4隅に設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 輪留め、ハンドル切り、サイドブレーキの実施 手元足元注意 周囲構造物の確認 外れることのないように設置する 挟まれん棒は手摺上段から50cm程度の高さにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車が規制内に進入してくる 重量物を持ち上げる際に腰を痛める 高所作業車から墜落する 高所作業車から工具等を落下させる 構造物との間に挟まれる 	5	2	7	IV	・早めの合図としらすんだーの活用
				2	2	4	II	・2名以上で声をかけあって持つ
				5	2	7	IV	・墜落用制止器具の使用
				2	2	4	II	・手元に注意して行う
				5	2	7	IV	・挟まれん棒の適切な設置
削孔・アンカー取付	<ul style="list-style-type: none"> ハンマードリルを使用して削孔する アンカーを打ち込む 	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルを損傷させないように注意して行う 打ち込む角度に注意する 	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルを損傷させる 飛散した粉が目に入る 飛散した破片が一般車にあたる ハンマーで手を叩く 	5	2	7	IV	・手元注意、ヘッドライト点灯
				2	2	4	II	・保護メガネの着用
				3	2	5	III	・保安員の合図の元作業する
				2	2	4	II	・保護手袋の着用
樋(TXシート)の設置	<ul style="list-style-type: none"> フラットバーとTXシートを設置する(TXシートの1回の設置長はフラットバー同等の2mとする。設置の際はデッキ外に原則シートを出さないこと) 隙間にコーキング材を注入する 上部はTN点検車にて設置を行う、TN点検車にて設置出来ない下部はビームリフターを用いて施工を行う、ビームリフターで施工不可の場合は可搬式作業台にて施工を行う。その際2m以上の高さにならないようにすること 	<ul style="list-style-type: none"> TXシートは現場ではなく準備時にカットしておく。 手元に注意して行う コーキング材が垂れないように量に注意する 高所作業車使用時は確実な挟まれ防止対策を実施する 可搬式作業台使用時、補助者をつけること。 上部の施工と下部の施工を分け、上下作業とならないようにすること 	<ul style="list-style-type: none"> カッターで指を切る インパクト使用時指をつめる 上部から物や人が落下し、下部の作業員と接触する。 	2	2	4	II	・保護手袋の着用
				2	2	4	II	・保護手袋の着用
				4	2	6	VI	・声掛けを実施する。
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 高所作業車の片付けを行う 材料、工具を車両に片付ける 終礼の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 高所作業車に取り付けた挟まれん棒を確実に取り外す 飛散しないようシート、ネット養生を確実にを行う 	・回送中に資材が落下する。	4	1	5	III	・隙間が空かないように確実にシートをかける

注意事項

- ・既設ケーブルの事前確認
- ・高所作業車の点検
- ・光り物の点検
- ・安全対策の確認(挟まれ防止対策、墜落用制止器具、飛散防止ネット)